

1 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
紫斑病	—	やや多	・前年の子実調査の結果、発生量はやや多かったことから伝染源量はやや多いと推測される。(/+) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/±) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	—	やや少	・巡回調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった。(/-)
フタスジヒメハムシ	—	やや少	・巡回調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった。(/-) ※平年値は9か年平均による(H24より調査開始)。

2 りんご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	—	やや多	・巡回調査の結果、新梢及び徒長枝における発生地点率は平年並であった。(/±) ・定点調査ほ(ふじ)の徒長枝における発病葉率は、平年より高く推移している。(/+) ・高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
ハダニ類	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かった。(/+) ・高温・乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

3 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
さび病	—	やや少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・15～20℃の気温で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。(/ ±) ・15～20℃の気温で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
黒斑病・葉枯病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。(/ ±) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ネギアザミウマ	—	やや多	・巡回調査の結果、被害株率は平年より高く、発生地点率も平年よりやや高かった。(/ +) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ネギハモグリバエ	—	やや少	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低かった。(/ -) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

4 いちご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
炭疽病	—	やや多	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・エタノール噴霧法による潜在感染株の検定結果、発生地点率は過去5か年の平均より高かった。(/ +) ・高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
うどんこ病	—	やや少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) ・20℃前後の気温が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ハダニ類	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かった。(/ +) ・高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
コナジラミ類	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年並であったが寄生頭数は平年より多かった。(/ +) ・高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

5 作物共通害虫発生現況

病虫害名	発生時期	発生量	発生現況
コナガ	—	—	・登米市と石巻市では6月第3半旬と7月第1半旬と7月第3半旬に多く誘殺され、この時期に誘殺ピークがあったと推測される。
オオタバコガ	—	—	・フェロモントラップによる誘殺数は、登米市では7月第3半旬から8月第1半旬まで平年より多く推移した。 ・石巻市では7月第4半旬に平年より多く誘殺された。 ・大崎市では8月第2半旬まで平年並の誘殺数となっている。

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：早くなる要因 (空欄)：該当せず

発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第7号の発行日は、9月16日(木)の予定です。

ー9月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月17~20日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台8月26日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)前年の子実調査の結果,発生量はやや多かったことから伝染源量はやや多いと推測される。
- (2)多湿が発生に好適であり,向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率及び発病株率は平年並であった。
- (2)多湿が発生に好適であり,向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生量は平年よりやや少なかった。

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生量は平年よりやや少なかった。
※平年値は9か年平均値による(H24より調査開始)。

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・紫斑病、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ、カメムシ類等の各病害虫については同時防除が可能である(『発生予報第5号』の防除体系図を参照)。ただし、ジャガイモヒゲナガアブラムシの密度が高い場合は単独防除を実施する。
- ・今後の気象情報に注意し、曇雨天が続くような場合は、防除のタイミングを逃さないよう晴れ間を見て防除を実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labо/mechanism.html>)

(2) 紫斑病

- ・開花期の 20～40 日後に1～2回薬剤防除を実施する。特に、「タンレイ」では発生が多いので、2回の防除を徹底する。
- ・刈取時期が遅れた場合は紫斑粒が増加するので、刈取りは適期に行い、速やかに乾燥を実施する。
- ・各種薬剤の防除効果については、以下を参照する。
※普及に移す技術第 95 号普及情報3「ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果」
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/789215.pdf>

(3) べと病

- ・明きょや暗きょの補修・点検を行い、排水対策を徹底する。
- ・紫斑病との同時防除が可能であるが、発生が著しい場合は単独防除を実施する。

(4) アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

- ・葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏によくかかるように散布する。
- ・8月下旬～9月上旬に密度がピークに達し、葉に吸汁痕(鮮明な黄色斑点)をつくる。葉裏をよく観察し、多発した場合は防除を実施する。
- ・防除後も密度が低下しない場合や急激に密度が高くなった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。
- ・防除に有効な薬剤や密度と減収の関係性については以下を参照のこと。
※普及に移す技術第 81 号「ダイズのジャガイモヒゲナガアブラムシの被害と薬剤による防除」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69976.pdf>

(5) フタスジヒメハムシ

- ・播種時の初期防除に加えて、第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施すると効果的である。

(6) マメシンクイガ

- ・大豆の連作ほ場では発生が多くなるので、特に注意する。
- ・成虫の発生盛期は地域によって異なるが、本県の場合は概ね8月第6半旬～9月第1半旬である。

・孵化幼虫が莢内に食入すると防除効果が低下しやすいため、防除適期(成虫発生盛期からその10日後まで)に注意し、防除を実施する。

※普及に移す技術第89号普及技術3「フェロモントラップを用いたマメシクイガの成虫発生時期の把握」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/256474.pdf>

・連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、効果の高い薬剤を選定する。

※普及に移す技術第94号普及情報11「ダイズのマメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニプロール水和剤の防除効果」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735224.pdf>

(7) 吸実性カメムシ類

・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期と子実肥大中期の2回薬剤を散布する。越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意する。

(8) オオタバコガ

・本虫は1粒ずつ葉裏等に産卵する。若齢幼虫期には展開中の新葉に潜り込むことが多く、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難になる。また、中齢幼虫期以降は莢に移動して加害することから、被害が大きくなる傾向がある。発生を確認した場合は速やかに防除を実施する。

・オオタバコガに対して効果が高い薬剤については、下記の普及に移す技術も参照。

※普及に移す技術第94号普及情報13「ダイズのオオタバコガに対する各種薬剤の防除効果」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735226.pdf>

※普及に移す技術第95号普及情報5「ダイズのオオタバコガとウコンノメイガに対するフルキサメタミド乳剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/789165.pdf>

・『発生予報第6号－作物共通害虫発生現況(8月)』も参照。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月17～20日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区気象台8月26日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢及び徒長枝における発生地点率は平年並であった。
- (2)定点調査ほ(ふじ)の徒長枝における発病葉率は、平年より高く推移している。
- (3)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かった。
- (2)高温・乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。

2 防除のポイント

(1)斑点落葉病

- ・本県では、収穫時期まで常に発病の可能性があることから、徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等で発生状況を観察して防除を実施する。
- ・降雨が続くと発病が急増する場合がありますので、定期的に防除を実施する。
- ・不要な徒長枝等を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るよう管理する。

(2)ハダニ類

- ・病害虫防除技術情報第5号(8月24日発行)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/868057.pdf>

(3)その他

- ・品種による収穫時期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ・特に晩生種で最終散布を早めに切り上げると、果実に斑点落葉病、褐斑病、すす点病、すす斑病等が発生したり、シンクイムシ類等の食害を受けたりする場合もあるので、生育状況と収穫時期にあわせた防除を行う。
- ・被害果(葉、枝)は、翌年作の感染源になる場合があるので、園内に放置せず、適切に処分する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ✓ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ✓ 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ✓ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ✓ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ✓ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう
- ✓ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう

ー9月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月17~20日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台8月26日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。
- (2)15~20℃の気温で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。
- (2)15~20℃の気温で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温、降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、被害株率は平年より高く、発生地点率も平年よりやや高かった。
- (2)少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低かった。
- (2)少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、病害発生を助長したり、害虫の発生源にもなるので、除草に努める。

(2) さび病, ベと病, 黒斑病・葉枯病

- ・被害株から菌が飛散して感染が広がるので、ほ場をよく観察し適期防除に努める。
- ・さび病, ベと病は夏場の高温期に一時病勢が停滞するが、気温が低下してくると再び症状が見えてくる場合があるので、発生状況をよく確認する。
- ・多湿(降雨, 滞水)により発病が促進される。降雨に備えて排水路の整備, 明きよを設けるなどの排水対策を実施する。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を行う。

(3) ネギアザミウマ, ネギハモグリバエ, ネギコガ

- ・多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・ネギアザミウマは卵から成虫まで異なる生育ステージが混在するので、多発時には薬剤の散布間隔を短くするなどの対策を行う。また、ウイルス病を媒介することがあるので、発生初期の防除に努める。
- ・昨年度、県内で従来のネギハモグリバエとは異なり、著しい食害痕を呈する別系統のネギハモグリバエの発生が確認されている。詳細については下記の特報を参照。

※令和2年度発生予察情報 特報第3号「ネギハモグリバエ(別系統)の発生について」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/844860.pdf>

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)

ー10月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:8月20日(育苗)

天候予報:仙台管区气象台8月26日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生は確認されなかった。
- (2)エタノール噴霧法による潜在感染株の検定結果,発生地点率は過去5か年の平均より高かった。
- (3)高温多湿が発生に好適であり,向こう1か月の気温,降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生は確認されなかった。
- (2)20℃前後の気温が発生に好適であり,向こう1か月の気温,降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率は平年よりやや高かった。
- (2)高温乾燥が発生に好適であり,向こう1か月の気温,降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率は平年並であったが寄生頭数は平年より多かった。
- (2)高温乾燥が発生に好適であり,向こう1か月の気温,降水量はほぼ平年並と予報されている

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・適切な肥培管理及び予防防除の徹底により健苗育成に努め,本ぼに病害虫を持ち込まない。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため,同一作用機構分類に属する剤の連用を避け,計画的なローテーション散布を行う。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・いちごの農薬使用回数は,親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。

- ・IPMに関する防除については、下記の普及に移す技術を参照。
 - ※普及に移す技術第 93 号普及技術7「大規模施設における促成イチゴ栽培の IPM 体系」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685135.pdf>
 - ※普及に移す技術第 82 号普及技術9「促成イチゴ栽培でのミヤコカブリダニを基幹としたハダニ類の防除体系」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69958.pdf>
 - ※普及に移す技術第 94 号参考資料 16「促成イチゴにおける UV-B 電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735203.pdf>
 - ※普及に移す技術第 90 号参考資料 20「紫外線照射 (UV-B) によるイチゴうどんこ病の防除」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/305995.pdf>

(2)炭疽病

- ・すでに発生がみられ、株を取り除いている園地が複数見られている。育苗ほ場をよく見回り、発病株を見つけたら、その周辺の株も含め速やかに取り除いて適切に処分し、本ぼへ持ち込まないようにする。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、かん水の際は注意する。
- ・葉かき作業は、晴天時等、湿度の低い時に実施する。また、かき取った葉は放置せず、ほ場外に運び出して処分する。
- ・QoI 剤耐性イチゴ炭疽病に対する各種薬剤の防除効果については、下記を参照。
 - ※普及に移す技術第 89 号参考資料 15「QoI 剤耐性イチゴ炭疽病の発生と有効な防除薬剤」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/256498.pdf>

(3)うどんこ病

- ・本病は高温期に一時病勢が停滞するが、気温が低下してくると再び症状が見えてくる場合がある。発病株を本ぼに持ち込まないように、育苗ほ場での防除を徹底する。
- ・適切な温度管理やかん水、葉かき作業と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。
- ・各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性については、下記を参照。
 - ※普及に移す技術第 93 号参考資料 11「各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性」
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685977.pdf>

(4)ハダニ類・コナジラミ類

- ・発生しているほ場では、本ぼに持ち込まないように防除を徹底する。
 - ※普及に移す技術第 91 号参考資料 22「スピロテトラマト水和剤のイチゴ促成栽培における育苗期かん注処理による本ぼでの微小害虫抑制効果」
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/library/91sankoushiryou22.pdf>
- ・施設内部や周辺部の除草を徹底し、発生を抑制する。
- ・有効成分によっては、防除効果の発現まで時間がかかる場合もある。薬剤の性質を理解した上で防除効果を確認する。
- ・ハダニの場合、寄生種(ナミハダニ、カンザワハダニ)によって、防除効果が異なる場合があるので、寄生種を見極めて薬剤を選定する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ✓ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ✓ 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ✓ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ✓ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ✓ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう
- ✓ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう

コナガ・オオタバコガの発生現況と防除のポイント

フェロモントラップ設置:角田市, 名取市, 大崎市, 登米市, 石巻市

1 発生現況

○コナガ

- 登米市と石巻市では6月第3半旬と7月第1半旬と7月第3半旬に多く誘殺され, この時期に誘殺ピークがあったと推測される(図1)。

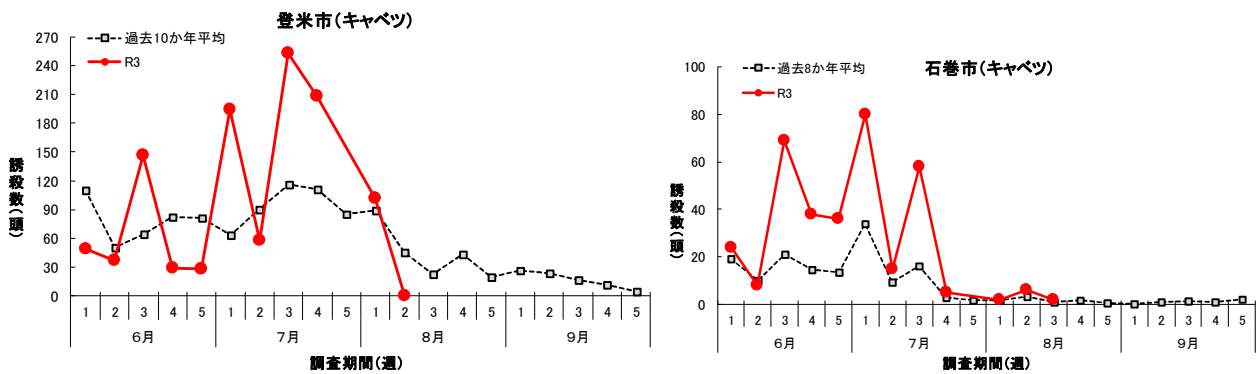


図1 コナガの誘殺状況

○オオタバコガ

- フェロモントラップによる誘殺数は, 登米市では7月第3半旬から8月第1半旬まで平年より多く推移した(図2)。
- 石巻市では7月第4半旬に平年より多く誘殺された。
- 大崎市では8月第2半旬まで平年並の誘殺数となっている。

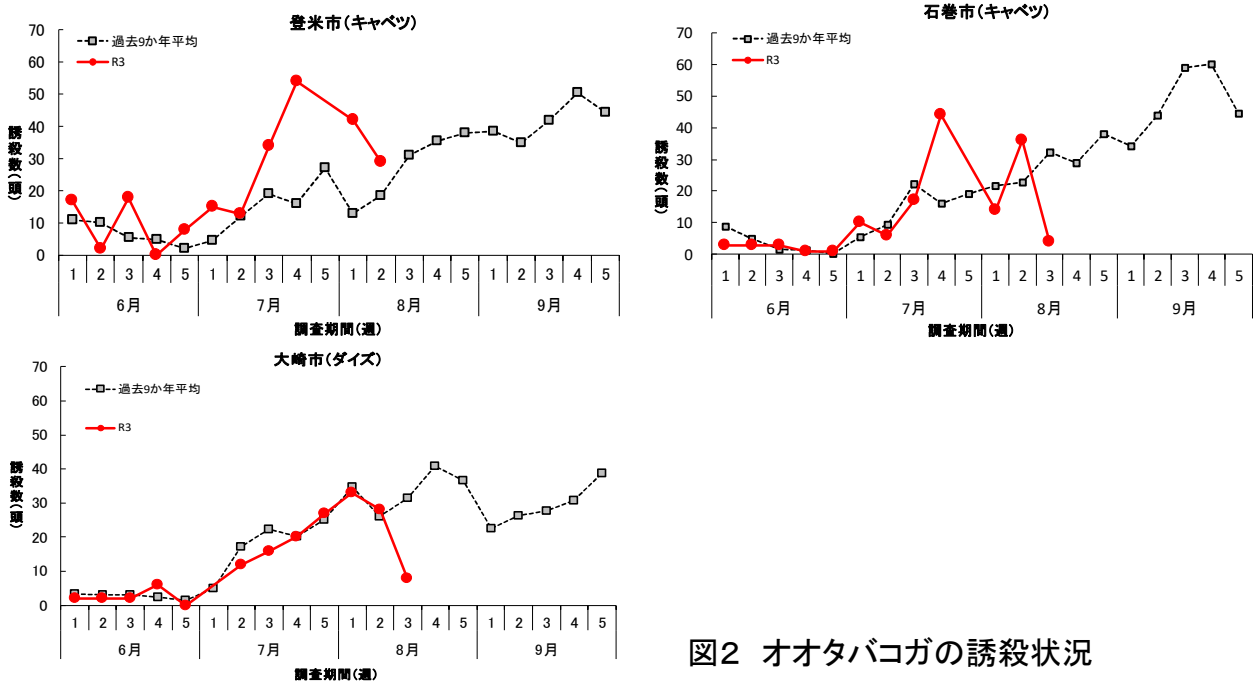


図2 オオタバコガの誘殺状況

その他の地点の結果は病害虫防除所のホームページを参照してください。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r03trap.html>

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤防除は、高い防除効果が得られる中齢幼虫までに行う。
- ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、IRAC コード*が同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ※^{アイラック}IRACコード: 殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの

(2) コナガ

- ・幼虫は葉の裏面から食害することが多いため、薬剤の散布は葉裏にも十分かかるように行う。
- ・施設栽培では、開口部に寒冷紗や防虫網(1mm 目合以下)を張って成虫の侵入を防止する。

(3) オオタバコガ

- ・発生が多くなる時期を迎えているため、生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入し防除が困難になる前に、ほ場をよく見回り見つけ次第捕殺する。
- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・被害部位の切除や摘心、摘蕾等で生じた残さには卵や幼虫がついている場合があるため、ほ場外で適切に処分する。
- ・施設栽培では、開口部に寒冷紗や防虫網(4mm 目合以下)を張って成虫の侵入を防止する。

ー 農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)